

各 位

花筐公園 170年記念

花筐物語（はながたみものがたり）趣意書



栗田部は男大迹王潜龍の地として誕生し、照日の前との愛の物語、謡曲「花筐」の舞台として親しまれ発展してまいりました。

また、先人達も歴史、文化、伝統行事を継承し、岡太神社を中心とする栗田部のまちづくりに貢献されました。

花筐公園は、弘化元年（1844年）関甚兵衛さんが奈良吉野から40数本の桜を移植し「桜ヶ丘」として産声をあげました。これが花筐公園の発祥です。そして、幾度かの改良工事を重ね、県天然記念物「薄墨桜」と共に継体天皇ゆかりの県下に誇れる由緒ある自然公園として『国登録文化財』の認定を受け、今日まで町民に誇りと癒しを与え、栗田部のまちづくりに大きく役立っております。

今や、住民が主催してきた春の桜まつり、秋のもみじまつりには県内外より多くの観光客が訪れ、親しまれ、大きな成果を上げております。

しかし近年、「薄墨桜」の大枝折損をはじめ公園内の桜の老朽化が目立ち、計画的な整備が必要な状況になってまいりました。

今年、平成25年には花筐公園造成170年の節目を迎えます。これを機に『花筐物語（はながたみものがたり）』を企画し、花筐公園の活性化と啓蒙を推進して更なる発展を期すものであります。

この『花筐物語（はながたみものがたり）』は、花筐伝説である「出逢い」「再会」「想う心」をコンセプトに、栗田部の魅力と誇りを次世代につないでいける物語として伝えてまいりたいと考えます。

皆様に於かれましては、何卒趣旨にご賛同いただき、深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

目指すもの

桜、もみじ、カタクリなど植物の保護育成など、公園整備を重点に来客者の癒しの場としての器づくりを進めます

世代や地域を超えた人と知の交流により、より確かな地域文化を育てます

継体天皇繋がりから隣接地域と連携し、観光名所の構築に向けて協議を深めていきます

平成25年2月19日

はながたみものがたり

花筐物語実行委員会

会 長 福 田 往 世